

鳥取医療センターにおける一次救命処置(BLS)の標準実技普及の取り組み

清水泰史^{1)*}

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 (現, 浜田医療センター)

Diffusion of standard skills for the basic life support (BLS) in Tottori Medical Center

Yasushi Shimizu^{1)*}

1) Department of Nursing, National Hospital Organization Tottori Medical Center
(Present address: National Hospital Organization Hamada Medical Center)

*Correspondence: 〒697-8511 島根県浜田市黒川町 3748

要旨

突然の心肺停止に遭遇した時に、的確に対応する自信がない現状が事前の意識調査から分かった。そのため、誰もが初期の救命処置に取り組めるように、一次救命処置(BLS: Basic Life Support)の手技を習得する必要があると考え、平成18年5月より、毎月1回、連続20回行ったBLS研修会の取り組みについて報告した。加えて、BLSの基本手技を解説した。鳥取臨床科学 1(2), 263-268, 2008

Abstract

We noticed that, according to the results in the advance survey of the nurses working for our hospital, the majority of them are unsure about adequate resuscitation procedures, when they come across a patient with sudden cardiopulmonary arrests. Therefore, we proposed to acquire standard skills for the basic life support (BLS) in order for us to perform it. We herein report the 20 consecutive training sessions that have been held once a month since May 2006. In addition, we here outline standard skills for the BLS. *Tottori J. Clin. Res.* 1(2), 263-268, 2008

Key Words: 一次救命処置, 研修会, 事前アンケート, 二次救命処置, 自動体外式徐細動器, basic life support (BLS), training sessions, advance survey, advanced cardiovascular life support (ACLS), automated external defibrillator (AED)

はじめに

急変が予測できる状態の患者の救命処置と異なり、窒息のような事故を含む突然の心肺停止に遭遇した時、意識調査により、的確に対応する自信がない現状が分かった。そのため、誰もが初期の救命処置に取り組めるように、手技を習得する必要があると考えた。

それにはまず、二次救命処置(ACLS: Advanced Cardiovascular Life Support)につなげるために、シナリオに基づいて行動できる一次救命処置(BLS: Basic Life Support)を、何度も繰り返し学習することが簡便で効果的である。平成18年5月より、毎月1回、連続20回行ったBLS研修会の取り組みについて報告する。

研修内容, 方法

- 1) 平成18年5月より、毎月1回、第3または4木曜日に、構造的に施設の中心にある第2会議室(看護部長室隣り)で行った。勤務時間外の自主的な運営であった。
- 2) 多様な勤務シフトに対応し、公平な参加機会を提供するため、奇数月は17時30分より、偶数月は18時より開始し、1時間程度とした。
- 3) 日本版救急蘇生ガイドライン策定小委員会編集の一次救命処置の標準実技のシナリオに基づき、蘇生人形、自動体外式徐細動器(AED)を用いて実技を演習した。平成19年6月の第14回学習会より06年バージョンに変更した。
- 4) マスク換気、喉頭鏡の使い方、挿管方法、誤嚥室